



広がれ 子どもの居場所

ココロねっこ新聞

長崎県



ココロねっこ運動とは

県では、子どもたちを健やかに育むための取り組みを「ココロねっこ運動」として推進しています。(長崎県子育て条例第22～24条)

取り組みの例

- 地域の子どもたちにあいさつをします
- 学校や地域行事などに参加しやすい職場にします
- 「家庭の日」は家族で過ごす時間を大切にします
- 子どものスマートフォンにはフィルタリングを設定します

登録者数は6545人・団体(2024年9月末現在)

登録者を募集中!!
長崎県青少年育成県民会議
Tel.095-824-7510



「めだか」で開かれるフラワーアレンジメントなどのイベントも、子どもたちも大人気

地域とつながる安心感

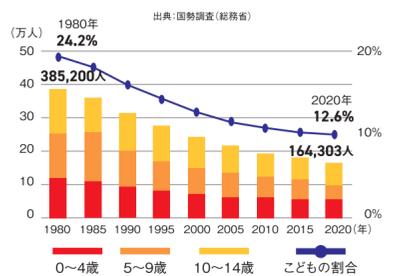
放課後クラブ「めだか」〈諫早市〉

金曜日の夕方。授業を終えた諫早市立真崎小の児童たちが、学校近くの放課後クラブ「めだか」に集まってくる。そこは、子どもたちも一緒に宿題を済ませた後で、遊んで楽しい。地域、住民のスタッフたちに見

地域のつながりが希薄化し、子どもが地域コミュニティの中で育つことが困難になっている。こうした課題認識の下、長崎県は「新しい長崎県づくりのビジョン」の中で、子どもが主役の「こども場所」の充実を掲げ、地域での居場所づくりの後押し方を検討している。子どもたちがのびのび過ごす地域の寄り合い所を取材した。



長崎県の子どもは人口の8分の1に減少



1980年の子どもの数は約38万人、人口の4分の1が子どもだったが、2020年は約16万人、人口の8分の1に減少する中で、子ども子育てをめぐる環境が大きく変化している。

子どもたちの笑顔守りたい

「めだか」は当初、19年4月に高齢者の寄り合い所として開設された。地域に開かれたイベントを定期的に行っている。子どもたちも参加できるように。そこで、こども向けに、フラワーアレンジメントやハロウィンなどの不定期イベントの企画が始まった。それが1年ほど続いた後、スタッフの間で現在の形に活動を発展させる意見がまとまった。

健全育成に貢献を

放課後クラブ開設の背景には、地域コミュニティの希薄化や家庭環境の変化がある。「めだか」副代表の福田美子さんは、地域と子どもたちの

距離が遠くなった現状を懸念。「めだか」で地域のひとと顔見知りになり、のびのびと過ごしてほしい。学校や家で話さず、もう一つの居場所にしてくれたら」と願う。

運営側の思いに、保護者からは感謝の声が上がる。仕事を終えて、3年生と5年生の子どもを迎えに来た夫婦共働きの太田菜さんは「放課後をこどもだけで過ごす、親の目が行き届かない。ここは地域の方とつながりができるし、安心感がある」と話す。

一方、運営費の多くが運営側の善意で、スタッフも全員が60～80代と、継続に向けた課題はある。それでも、「めだか」代表の峯友清博さんは「こどもと接することで、こちらも元気をももらって、こどもたちの笑顔を守り、健全育成の役に立ちたい」と、対策を模索しながら今後の運営に意欲を見せる。

長崎県青少年育成県民会議 宮本幸成事務局長の話

心がけの輪を広げて

ホッとできる。素でいい。誰かに認められる。そんな居場所が子どもの健やかな育ちには不可欠。「めだか」さんのように、ボランティアで居場所づくりに取り組む方々の存在は大変ありがたく、私たちも、健全育成会などと連携して、こどもが地域で居心地よく過ごせる機会を一緒につくりたいと呼びかけている。

居場所づくりに限らず、例えば子どもを見かけたら車のスピードを落としたり、あいさつをしたり、そういう心がけの輪が広がれば、こどもが安心して過ごせる社会になると思う。

幼児教育センター

重要な「はじめの100か月」

誕生前から幼児期までの「はじめの100か月」はその後の長い人生を歩む上で、最も重要な期間とされている。



これからはますます複雑化する社会に適應し、幸せに生きるためには「非認知能力」とは忍耐力、好奇心、社会性、共感性、自制心などを指す。

里親制度

家庭の温もり知って社会へ

3人の実子がいる佐世保市の小川隆裕さん(64)、伸子さん(63)夫妻は、県の里親制度を活用してさらに2人の子どもを家族に迎えた。里子に家庭の温かさを感じてほしい。小川さん夫妻は里子の幸せを願いながら養育を続けている。

YELLながさき

長崎市茂里町へ事務所移転

仕事、子育て、法律相談、支援制度の活用など、ひとり親家庭が抱えるさまざまな不安や悩みに対応する専門相談窓口「YELLながさき」(長崎県ひとり親家庭等自立促進センター)。今年10月に県総合福祉センター棟2階に事務所を移転した。

昨年、センターへの相談は1万件以上に上り、このうち就労支援に関するものが一番多いものの、この数年は子育て、経済

LINEで便利に「ココロンパスポート」

「ながさき子育て応援の店」をご存じですか?お店で使える「ココロンパスポート」を県の公式LINEアカウントから利用できるようになりました。県内約2,500のお店も、LINEから検索できます。

ながさき子育て応援の店とは
※カードタイプのパスポートも発行できます

ココロンのステッカーがあるお店で、デジタルパスポートを見せると、お得・便利なサービスが受けられます。

サービスはお店によっていろいろ!

- ・すまいるサービス: キッズスペース、お子様食器など
- ・とくとくサービス: 割引、おまけなど

対象は小学生まで! ※一部、未就学児対象の店舗があります

全国で使えます! ※一部、県外のパスポートが使えない店舗があります

子どもの声に耳を傾け、親子で一緒に利用のルールづくりを行いませんか?
ゲーム・スマホ・テレビのルール
大人が押し付けていませんか?

県は「こどもメディアサミット」を今年初開催!小中学生が、自分たちでメディア利用のルールを考え、大人に対してアピールしました。
【長崎市】2024年7月28日:長崎県庁大会議室 【佐世保】2024年8月4日:長崎県立大学佐世保校

ワークショップ① 電子メディアの「よさ」と「リスク」
② 大人からの情報共有タイム
③ 私が考えるより良い使い方アイデア(大人への提言)

お見合いシステム
2023年度

成婚数100組超

祝 成婚者の声!



2024年入籍・Sさん夫婦

今年7月に入籍し、2025年4月に挙式予定のSさん夫婦。出会いのきっかけは、「あいたか」で行われているさまざまなイベントの一つだった。妻のRさん(30)が、会員限定のプロフィール写真撮影会に参加。その写真とともに夫のSさん(38)にアプローチしたところ、Sさんも好印象を持った。

県のお見合いシステムを選んだ理由を、Sさんは「婚活アプリは気軽に登録できるが、こは「あいたか」へ足を運ぶなどの手間がある。真剣に結婚したい人と出会えると思った」と語る。その思いが実現し、一緒に旅行をするなど、共通の趣味を楽しむ中で距離を縮めて成婚した2人。「いつかは子どもを産み、家族仲良く過ごしたい」とほほえんだ。

イベント積極的に活用

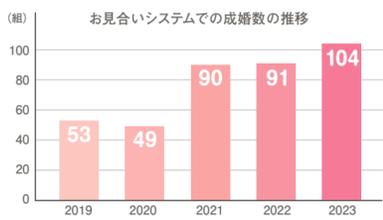
県庁2階にある「あいたか」。主な事業は会員だけが利用できる1対1のデータマッチングシステム「お見合いシステム」の運用で、2017年のシステム導入以来、成婚数は473組に上る(24年9月末現在)。同様のシステムを活用している全国の約30自治体に比べても、トップクラスの成婚数だ。久保山健司センター長は「県が婚活支援に力を入れていて、2年ごとにシステムのバージョンアップを行っている」と理由を挙げた。



JR長崎駅構内のデジタルサイネージで「あいたか」をPR

全国トップクラスの実績

今年1月にスタートした「複数お引き合わせ・お友だち交際機能」は複数の方への申し込みが可能になり、最大3人のお相手とお友だち交際が可能となった。それまで申し込みは1人の結果が出るまで他の人を検索することも、検索されることもできなかった。これによりお引き合わせ(マッチング)した人同士が直接会うことが約3倍になったという。久保山センター長は「会員にとっては確実にチャンスが広がった」と分析する。



お見合いシステム 3つの安心

- ① 独身証明、本人確認が万全!
- ② 氏名・住所は非公開!
- ③ お引き合わせにはサポーターが立ち会い!

人が人をつなぐ温かさ

ち会うが、サポーターは県内に述べ約100人おり、20代〜70代のボランティアが務める。マッチングした会員同士はお引き合わせが初対面となるので、サポーターが会話を促し、2人の緊張をほぐしてくれる。その後、もつれ合い方など個々の相談に乗ってくれる。一方、専門家による相談会(毎週)やセミナーを開催し、精神面でのサポートも欠かさない。「アプリにない出会い方」、人気の秘密は人が人をつなぐ温かさにあった。

たくさんの人と出会おう!

「あいたか」では、今年も県内の市町と合同で出会いのイベントやセミナーなどを開催している。注目は何と言っても男女50人ずつの大型イベントだ。「結婚はしたいが、出会いがない」と嘆く独身男女のために、多くの方と交流できる機会を設けようと企画された。予定5回のうち終了した3回は、定員を超える応募があり、イベント後、参加者同士が積極的に連絡先を交換している姿が目立ったようだ。

注目の大型イベント、今年はあと2回

残り2回は、11月16日(土)佐世保市の九十九島水族館海きらら、12月14日(土)大村市で観葉植物の栽培・販売をしている「エコグリーンヒガシ」で開催する。どちらもキーワードは「癒し」。リラックスした雰囲気の中で、気になるお相手と距離を縮めてもらう。

「海きらら」では、大水槽やイルカのプログラムなどで盛り上がった後に、「エコグリーンヒガシ」では、人気の多肉植物の寄せ植えを作った後に、それぞれトークタイムが設けられている。

11/16 SAT 佐世保

12/14 SAT 大村

イベントの申し込みはコチラ!!



2024年入籍・Hさん夫婦

Hさん夫婦は2023年9月に巡り合い、半年後の24年5月に挙式入籍した。県のお見合いシステムに、夫のHさん(34)と妻のYさん(33)は「安心感があり、プロフィール情報が充実していた」「独身証明書の提出で信頼できた」とメリットを挙げる。

お引き合わせ当日はサポーターが同席。Hさんは「サポーターさんが場を和ませてくれた、緊張がほぐれた、Yさんも『その後もサポーターさんについて相談できて心強かった』と振り返る。互いに「話しやすくて一緒に落ち着ける」と実感し、交際をスタートさせた。家族になって約半年。2人は「子どもを2人くらい産み育て、穏やかな家庭を築きたい」と笑顔で語った。

県運営に信頼と安心感

働く人の結婚・子育てを応援!

株式会社 システック井上



総務部システムグループ長
山下 亮さん

当社は「はかる」「みちびく」「つたえる」という三つの知恵を掛け合わせたソリューションを提供し、発電所や上下水道、半導体、航空宇宙、医療機器などの分野で課題解決を目指しています。

ワークライフバランスを推進する会社の方針で、事前申請せずに就業時間を選べるフレックスタイム制度が2022年12月に導入されました。私は朝から子どもを保育園に送るため、基本の就業開始より1時間ほど遅く出社しています。1カ月の総就業時間を満

実用的なフレックスタイム

たせば、1日の就業時間を選択できるため、子どもが体調を崩した場合などは早めに退社できて助かっています。職場に育児を応援する雰囲気があるので、育休もこれまでに2度取得できました。



株式会社 システック井上
長崎市稲佐町3-3
TEL095-861-4136

働く子育て世代手厚く支援



銀の星学園
生活支援員
有馬 寿和さん

当法人は島原半島で、障がいのある方の安全で快適な暮らしのサポートを中心に、地域に根差した社会福祉事業に携わっています。私は障がい者支援施設「銀の星学園」で勤務。利用者の方の食事や入浴などの生活支援を担当しています。

地元企業で働く子育て世代の支援のため、2019年に当法人が「いろは保育園」を開設。職員の子どもの保育費や給食費は法人が負担します。子どもが体調を崩した際は、保育園が勤務先へ連絡。法人内が連携し、看護の



社会福祉法人 悠久会
島原市宮の町249-1
TEL0957-62-2961

働きやすい環境をつくる 3つの取り組み

①ながさき結婚・子育て応援宣言

企業の宣言を県に登録(登録無料)

県は働く人の結婚・子育ての希望がかなう環境づくりに向けた企業・団体の宣言を募集しています。宣言企業73社(9月末現在)

②県の子ども未来課

TEL095-895-2683

③ながさき女性活躍推進会議

自主宣言登録会員募集(登録無料)

県内企業等で働く女性の活躍推進に官民一体となって取り組んでいます。

④ながさき女性活躍推進会議事務局

TEL095-822-0245

⑤Nびが 優良企業として県が認証

県内の雇用労働政策課
TEL095-895-2714